

| 設 問 | 指導計画 学級 | A | | | | B | | | | 計 |
|-----|------------|----|----|----|----|----|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | もうまん画は卒業した | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 2 | 適当に読んでいる | 12 | 24 | 13 | 15 | 64 | | | | |
| 3 | 読んでも気にならない | 4 | 3 | 3 | 5 | 15 | | | | |
| 4 | やはり気になっている | 10 | 2 | 8 | 9 | 29 | | | | |
| 5 | さかんに読んでこまる | 5 | 5 | 7 | 5 | 22 | | | | |

(資料2) まん画を読んでこまっている子どもの母親たちの声の録音

(資料3) 持っているまん画の数のグラフ

イ、「でもまん画はとても楽しい、本当に読んでいけないか」について話し合い、200字程度の文章にまとめる。

(資料4) よいまん画, わるいまん画ベスト10

| 位 | 子どもの好きなまん画 | おとながよいと思うまん画 | 子どもが悪いと思うまん画 | |
|---|------------|--------------|---------------|----|
| 1 | アラレちゃん | 31 ササエさん | 17 マイチンごま子先生 | 36 |
| 2 | 機動戦士ガンダム | 27 赤銅鈴之助 | 12 ゲームセンターあらし | 19 |
| 3 | ドラえもん | 23 月光仮面 | 9 少年ジャンプ・マガジン | 18 |

ウ、「では、どんな読み方をすればよいか」自分の考えをはっきりさせて200字程度にまとめる。

(資料5) まん画を読む1日の平均時間

エ、これまでに書いたものを意見文にまとめる。

④ 結果と考察

上記の調査資料のほか、教師の用意した資料などをいくつか使用しているが、毎時間の書いたものを推こうさせ、さらに組み立てを考えさせて書かせたため、比較的まとまった作文ができあがった。

意見文のA、B学級の評価
(文章構成・表記上の評価)

| | | | | | |
|---|----|-----|----------|---------|----------|
| 5 | | | • ••• | • •• | ••• • |
| 4 | | | ••• | ••• | •• •• |
| 3 | •• | ••• | •••• | ••• | •• |
| 2 | •• | •• | ••• | •• | |
| 1 | • | •• | | • | |
| | a | b | c | d | e |

(内容の深まりからの評価) ○ A学級
● B学級

A, B学級の実態や担任がちがうため安易に比較することはできないが、A学級では長文や論理的な文章は少なかったが、比較的個性的な文章が目立った。また、これらの指導を通して、マンガを読む態度に変化があらわれ、読書指導としても役立った。

4 研究の反省と今後の方向

(1) この4月、第3年次研究をむかえたと思ったら、もう1学期が過ぎ去った。作文指導計画の作成や実態調査の洗い出しの最中、5年、6年の授業研究を実施した。過去2年間のつみ上げのおかげで、研究体制が早くでき、協力的な共同研究がすすめられてきた。

(2) 児童の表現力が伸びてきているという手ごたえを感じている。校内放送から流れる児童の原稿を読む声やノートに書きこまれた文字を通して感じとれるし、また教師自身の授業姿勢が変容してきている。

(3) 第2学期は、予定された授業研究をもとに次の点について実践していきたい。

- ① 文章表現力の基礎・基本とは何か。本校児童の実態とどう結びついているかの研究。
- ② 児童がよるこんで書くという姿勢を作るには、どこをどう工夫すればよいかの研究。
- ③ 第1学期の授業研究で問題化されてきた、物の見方、考え方を育てることや作文の処理のしかた(評価とはげまし)についての実践。
- ④ おくれがちな児童に対する指導内容・方法と同時に力のある児童をさらに飛躍させる行事作文・日記指導についての実践。
- ⑤ 地域の実情や児童の実態にそくした言語環境計画の作成。

5 参考文献

- 「教育研究のすすめ方」群馬県教育研究所連盟 東洋館出版社
- 「国語の新しい評価」藤井圀彦 東京書籍
- 「福島県標準学力診断検査問題による学力分析報告書」福島県教育センター
- 「無気力の心理学」波多野誼余夫・稲垣佳世子 中公新書 599